

◆戸別収集モデル地区説明会会場での「お問い合わせ」に対する回答

・生ごみ処理機の土は何ごみとして排出したらいいのでしょうか。

⇒乾燥型の生ごみ処理機の成果物について資源化の検討をしたのですが、資源化先において処理が難しいとの回答でした。燃やすごみとしてお出してください。

・モデル事業であるのですから、カラス除け対策のバケツ等は市が配布すべきでないのでしょうか。他1件。

⇒各家庭によってごみ質も異なるため、各家庭の事情に合わせて用意をしていただきますようお願いいたします。

・モデル地区の期間終了後もカレンダーは変更ないのでしょうか。

例えば、火曜日は容器包装プラスチックと植木剪定材ですが、植木剪定材についても戸別収集にはできないのでしょうか。火曜日のごみを出す労力は同じです。高齢者のことを考えたら一緒にすべきです。

⇒植木剪定材と容器包装プラスチックは、資源化先が異なることから別々の車両で収集することになるため、双方を戸別収集とするとコストがかなり高くなります。そのため、モデル事業の間については、申し訳ありませんが植木剪定材をクリーンステーションに、容器包装プラスチックについては玄関前に出していただくことになります。

今後、全市実施にあわせて、収集カレンダーの見直しを予定していますので、その際、負担が少しでも軽減するよう工夫をしていきたいと考えております。

・有料化の指定袋のサイズは何種類くらいを想定しているのですか。2人家族だと燃やすごみは1～5L、容器包装プラスチックは40～60Lが現状です。

⇒藤沢市では5L、10L、20L、40Lと4種類を用意しています。燃やすごみ、燃えないごみの指定袋のサイズについては5月に開催した審議会の中でも今後、議論が必要な課題となっています。

また、平成24年10月からのモデル事業の中でも燃やすごみ、燃えないごみの指定袋のモニタリングを予定しており、必要なサイズについてご意見をいただくことを予定しています。

なお、容器包装プラスチックは、無料品目としていく予定であるため、指定袋の作成は予定していません。

・生ごみ処理機の堆肥はどう処分・回収されるのですか。少しなら庭に撒けますが毎日発生すると困ると思います。

⇒生ごみ処理機には、乾燥型と消滅型の2種類があります。乾燥型は、処分が必要となる成果物は毎回発生します。乾燥型の成果物は、燃やすごみとしてお出してください。

消滅型については、処分が必要となる成果物はほとんど発生しませんが、投入する生ごみの種類や頻度にもよっては、半年から1年後に一定量処分が必要になります。

・事業所のごみの進捗状況と集合住宅などの大型生ごみ処理機の設置の進捗状況などの程度ごみの減量がすすんでいるのかということを広報などで周知してください。1年後という単位ではなく、中間報告を出していただきたいです。

⇒ごみの減量の進捗状況については、市民の皆様にも周知をしていかななくてはならないと認識しています。

周知の時期については、ご意見を踏まえ、検討させていただきます。

・説明会の時間が短すぎる。モデル事業に協力する気になれない。実施ありきの考え方は問題です。モデル事業なのだから、期を明確にして、客観的に判断できる結果評価を公開してほしい。

⇒会場の都合もあり、限られたお時間での説明会で申しわけありません。今後、各町内会単位での説明会も予定されておりますので、より詳細な説明をさせていただきたいと考えております。

戸別収集・有料化は、本市の焼却施設の負担軽減のため、燃やすごみを減量する施策の一つとして実施を予定しています。

今回のモデル事業は、全市戸別収集実施に向けて、主に収集体制の確認を行うことを目的としています。そのため、モデル事業は全市実施まで継続して行います。

モデル事業の評価については、広報等の中でも公表していきたいと考えています。

・有料化とあるが、藤沢市の1件当たりの料金はいくらか。

⇒藤沢市では、1回の燃やすごみを出すに当たり利用されている袋は20L袋1袋が多いと聞いています。1L当たり2円ですので、燃やすごみ1回につき20L袋ですと40円になります。

・世田谷区に以前住んでいました。世田谷区では生ごみもプラスチックも同じに回収されているようです。鎌倉に引っ越してきて分別の多さに驚きましたがよいことだとは思いますが、世田谷区のように生ごみとプラスチックを同じに回収することは考えられませんか。税金が高いのに住民負担は大きいのではないですか。

⇒鎌倉市では、容器包装プラスチックについては、容器包装リサイクル法による資源化ルートにより資源化をしています。製品プラスチックについては、資源化に経費がかかることから現在は燃やすごみとして処理をしています。

容器包装プラスチックを分別せずに焼却処分をすることは、現在の焼却施設では環境負荷が高くなります。また、本市の焼却施設の負担軽減からも燃やすごみの量を削減しなくてはなりません。

そのため、資源化ルートがある容器包装プラスチックは分別をお願いしています。

今後、新しい焼却施設の検討を行っていきますが、エネルギー回収する施設づくりを視野に入れて焼却する品目の検討をしていきます。